

「韓国の写真史が出たことも含めて、台湾・日本・韓国、それから中国を含めたアジア写真史という視点を将来考えていかなければいけないという予感を感じさせました」(飯沢耕太郎)



「賞も含めての話題性や、写真をめぐるいろんな動き自体はこの10年ですごく増えた気がします。そういう意味で言うと、若い写真家にとってはやりやすい環境になった気がするんですね。例えば写真集を作るにも、動画を作るにもコストが低くなっているし、発表するギャラリーも相当増えた」(鳥原 学)

「去年は中平卓馬さんが亡くなりました。(中略) 晩年ああいうトリックスター的な存在として写真界に独特の存在感を示していた中平さんがいなくなったことで、中平さんの遺した、写真全体に投げかけた問題を改めて受け止めることが求められるような、そんな宿題をおいていかれた感じがします」(増田 玲)



「(60年代末から70年代) 当時は前衛的な美術作家たちの仕事が、写真家に影響を強く与えていた非常に珍しい時期だったと考えます。写真家と美術家の仕事は長年ほとんど交わらなかったと思うんですが、68年の終わりから70年代半ばは違うんですね」

(光田由里)

-----座談会「話題の写真 2015」より

「日本写真年鑑 2016」 発売中

写真界の動きがわかる

「2016年版 日本写真年鑑」

(B5判 P.256) 税込 3,240円

- 2015年写真界話題の人インタビュー
- 2015年度写真賞受賞最優秀作品
- 国内・海外ニュース
- 2015年写真展・写真集、写真業界データ

お求めは 公益社団法人 日本写真協会 事務局まで

〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 JCIIビル 4F

TEL03-5276-3585、FAX03-5276-3586

E-mail: takeda@psj.or.jp

月～金 10:00～18:00 (祝日を除く)

